

9・11：永遠の口実、永遠の戦争

【訳者注】9・11 という一つの巨大なウソから、今日に至るすべての悲劇が起ったという事実を簡潔に述べていて、我々には役立つが、最後に見せているアメリカ人一般を見捨てたような態度は、誇張ではないだろうか？ もっと全員が目覚ませという“喝”のように聞こえる。しかし日本人には、残念ながらこれが当てはまるように思える。「この帝国がもはや隠そうともしない、否定できない陰謀の事実」と言っているように、米帝国は、ウソや陰謀を徹底的に暴かれ、追い詰められてほとんど白状した形なのに、日本人だけは、マスメディアと一緒に、「いえいえ、あなた様がそんなことをなさるはずはありません——ご冗談ばかり！」と言っているように私には聞こえる。

By Larry Chin

Global Research, September 11, 2015



9・11 というニセ旗作戦は“情報部の失敗”ではなかった。それは最大の“情報部の成功”であり、歴史上最大の犯罪作戦だった。

ブッシュ/チェイニー政府による9・11残虐劇は、今日まで拡大し、転移し続けている世界戦争の起動力となった。この戦争——“テロへの戦い”、アフガニスタンやイラクへの戦争、リビアへの戦争、“イスラム国への戦争”等は、すべて9・11という**大きなウソ**を根拠とする、同じ一つの戦争である。地球へやってきた者は誰一人、この増大する恐怖を逃れることはできない。誰一人、その炎に触れないわけにいかない。何百万という人々が殺された。社

会がすっかり拭い去られ、人々は住処を追われた。(訳者：war on~ は一方的な、への戦い、war with~ は、との戦い)

今日の世界——果てしない石油を狙う戦争、果てしないニセ旗テロ作戦と残虐行為、弱まらない政治犯罪、経済的収奪、社会動乱、ファシズム、監視やサイバー攻撃の恐怖、それに地球的な、戦争/情報 - 産業的政治国家の世界——は、9・11の生み出したものである。



無数のニセ旗テロ作戦が用いられた14年の後、アメリカ政府は、アルカーイダ軍 - 情報部資産を用いて、シリアを転覆させようとしている。アメリカは現在、公然と世界中のアルカーイダを支援し、武装させている。「9・11を起こした」同じアルカーイダのテロリストが、西側の最精鋭の歩兵となり、軍 - 情報要員となっている。アルカーイダは、シリアの3分の2を、アングロ - アメリカン帝国のために効果的に支配している。リビアはこの同じ軍隊によって（空爆は除く）倒壊させられた。

このすべては、この帝国がもはや隠そうともしない、否定できない陰謀の事実へと、端的に我々を引き戻す：——

イスラム“テロリスト”、アルカーイダ、それにその多くの要因たち（都合よく除かれた、半虚構のオサマ・ビン・ラディンを含め）は、冷戦以来、9・11以前も以後も、現時点に至るまで、ずっと西側軍部とCIAに雇われていた者たちである。アルカーイダはアメリカ製であり、CIAの援助を受けている。ミシェル・チョストフスキーが書いている通り、「デモクラシーの名において“地球的テロへの戦い”を先導する者たちは、彼ら自身がつくり出

したテロ組織を、装備し財政援助をしている者たちである。」イスラム国とは、単にこのテーマの変奏に過ぎない。それもまた「アメリカ製」であり、アメリカとその同盟諸国によって公然と支援され、利用されている。そして米 - NATO というスポンサー・操縦者の指令を受けている。

今日、ワシントンの戦争屋たちは、そうした自分たちの仲間や要員を、公然と開き直ってわがものとするようになり、自信をもってそうしている。元々の9・11神話が、あまりにも深く脳のシナプスに食い込んでいるので、その後の歪曲は脳をかすめて通っている。黙従する無知の大衆は、この公的なおとぎ話が日常的に手のひらを変えていることに、ほとんど気づかないでいる。

難民危機——アングロ - アメリカン帝国の戦争と、地域の不安定化の直接の結果——でさえ、CIAによって、もう一つのプロパガンダ武器に変えられようとしている。CIAの企業メディアによれば、シリア政府(アメリカに攻撃されているシリア政府)が悪いのだという。したがって「我々」は、「我々」のアルカーイダ“自由戦士”を送って、残っているものを破壊することによって、アサド政権をもっと速やかに倒さねばならないのだという。現在、9・11の時と同じように、オーウェル流恐怖が蔓延している。

中心的な9・11首謀者ディック・チェイニーは、この戦争は「我々の代では終わらないだろう」と約束した。実際、終わらないだろう。同様に、9・11の最も悪質な犯罪者たちの存在も終わらないだろう。

バラク・オバマは、忠実に、ブッシュ/チェイニーの9・11アジェンダをエスカレートさせている。やがて、ブッシュ犯罪一家は、世界の犯罪権力の手綱を、2016年の米大統領を狙うジェブ・ブッシュによって、再び取り戻すだろう。ジェブは“頭のいいやつ”と言われ、イラン・コントラ時代から、中心的なブッシュ犯罪事業をうまく運営してきた。

ジョージ・W・ブッシュは今、人気者だ。アメリカ人の大多数は彼を好意的に見ている。ジョージ・H・W・“ポピー”ブッシュは、CIAの生みの親で、毒を吐き出す大量殺人者だが、現在、ほとんどのアメリカ人が、やさしい無害なおじいちゃんとしている。ブッシュ家の次の世代は、ジョージ・P・ブッシュとともに上昇気流に乗っている。この人物は政治的に有用なラテン系の、悪夢のような御曹司で、米議会にまで上り詰めている。

ヒラリーとビル・クリントンは、ブッシュ家と長い関係があるが、彼らもホワイトハウス候補とみなされている。もしジェブ・ブッシュの運動がうまく行かなければ、クリントン夫妻が戦争機械を自由に動かすだろう。ほとんど疑いがないのは、この戦争の次の相は、米露中

間の全開した超大国戦争になる可能性が高く、同じ犯罪者シンジケートの生き物たちが、先頭に立つことになるだろう。

悲劇的なことに、多くの9・11警告者の警告したすべてが当たってしまった。真実を話し書いたすべての人々にとっては、苦々しい復讐である。周囲の世界が自ら物語っている。そしてそれは死の叫びである。